

学生の確保の見通し等を記載した書類

東京農工大学大学院先進学際科学府共同先進健康科学専攻
早稲田大学大学院先進理工学研究科共同先進健康科学専攻
(後期3年のみの博士課程)

目 次

- (1) 新設組織の概要
 - ① 新設組織の概要
 - ② 新設組織の特色
- (2) 人材需要の社会的な動向等
 - ① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析
 - ② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析
 - ③ 新設組織の主な学生募集地域
 - ④ 既設組織の定員充足の状況
- (3) 学生確保の見通し等
 - ① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
 - ア. 既設組織における取組とその目標
 - イ. 新設組織における取組とその目標
 - ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数
 - ② 競合校の状況分析
 - ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性
 - イ. 競合校の入学志願動向等
 - ウ. 新設組織において定員を充足できる根拠等
 - エ. 学生納付金等の金額設定の理由
 - ③ 先行事例分析
 - ④ 学生確保に関するアンケート調査
 - ⑤ 人材需要に関するアンケート調査等
- (4) 新設組織の定員設定の理由

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要

東京農工大学大学院先進学際科学府共同先進健康科学専攻及び早稲田大学大学院先進理工学研究科共同先進健康科学専攻（以下「共同専攻」という。）では東京農工大学の入学定員を6名、早稲田大学の入学定員を4名とそれぞれ設定する。（表1）

表1 共同専攻の入学定員及び収容定員

専攻	入学 定員	収容 定員	所在地
東京農工大学大学院先進学際科学府 共同先進健康科学専攻	6	18	東京都小金井市中町二丁目24番16号 東京都府中市幸町三丁目5番8号
早稲田大学大学院先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻	4	12	東京都新宿区大久保3丁目4-1

② 新設組織の特色

共同専攻は、理学・工学・農学の領域融合型で先端的な大学院教育により、産業界で高く評価される教育実現に向けて、多様な課題に解決能力と探究能力を発揮しうる人材の育成を主眼とし、豊かな教養と広い国際感覚及び高い倫理観を有する人材を養成することを目的としている。世界最高レベルの教育研究の実践により世界基準に準拠した教育環境において実践的研究の推進に加えてリスク管理と国際コミュニケーション力を駆使し、人類の願いである“健康”に寄与するために先進的な科学技術によって貢献する人材の育成を理念とする。

共同専攻は、医・食・環境に関わる先端研究を推進する能力を有するのみならず、国際基準の機器・新薬・分析法等の開発とリスク管理や審査プロセスを統括する能力を具備する人材を育成する。所定の単位数を修得し、かつ、東京農工大学及び早稲田大学の教員による研究指導を受け、両大学合同で実施される博士論文審査及び最終試験に合格した者に、その専門性に基づいて博士の学位を授与する。

なお、共同専攻は既設の東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻及び早稲田大学大学院先進理工学研究科共同先進健康科学専攻を引き継いで設置することとし、入学定員や所在地などに変更はない。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

東京農工大学では、学府の新設に伴い、社会・地域が共同専攻に求める人材需要の見通しを明らかにするため、令和7年8月に東京農工大学への求人企業に対してアンケート調査を実施し、採用選考に関わっている立場の方を中心として、多種多様な業種の企業等86社から回答を得た。アンケート項目は、別添資料のとおりであり、教育研究の特色や養成する人材像等を説明する資料を添付した。

アンケートの結果から、「バイオテクノロジー・創薬・医科学等に関する高度専門的スキル、リーダーとしての能力」の必要性を尋ねた設問に、「必要である」と回答した企業は全

体の約38%（32社）、また「健康科学・分子生物学・遺伝子工学等を統合的に解析し理論構築を行う能力」が必要であるかを尋ねた設問に、「必要である」と回答した企業は34%（29社）である。このことから、専攻の教育内容、養成する人材像等についての産業界からの期待を十分に確認することができた。

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

全国の18歳人口の推移は、図1のとおり令和10年頃まで横ばいであることが予測されており、一方で大学進学率は上昇していることが伺える。

また、共同専攻が主な募集地域と想定する関東地方の志願者における大学進学率について、図2のとおり2007年と比較して2022年に上昇している。大学院博士課程入学学生についても、図3のとおり近年増加傾向にあり、中長期的な入学定員の確保は十分可能と考える。

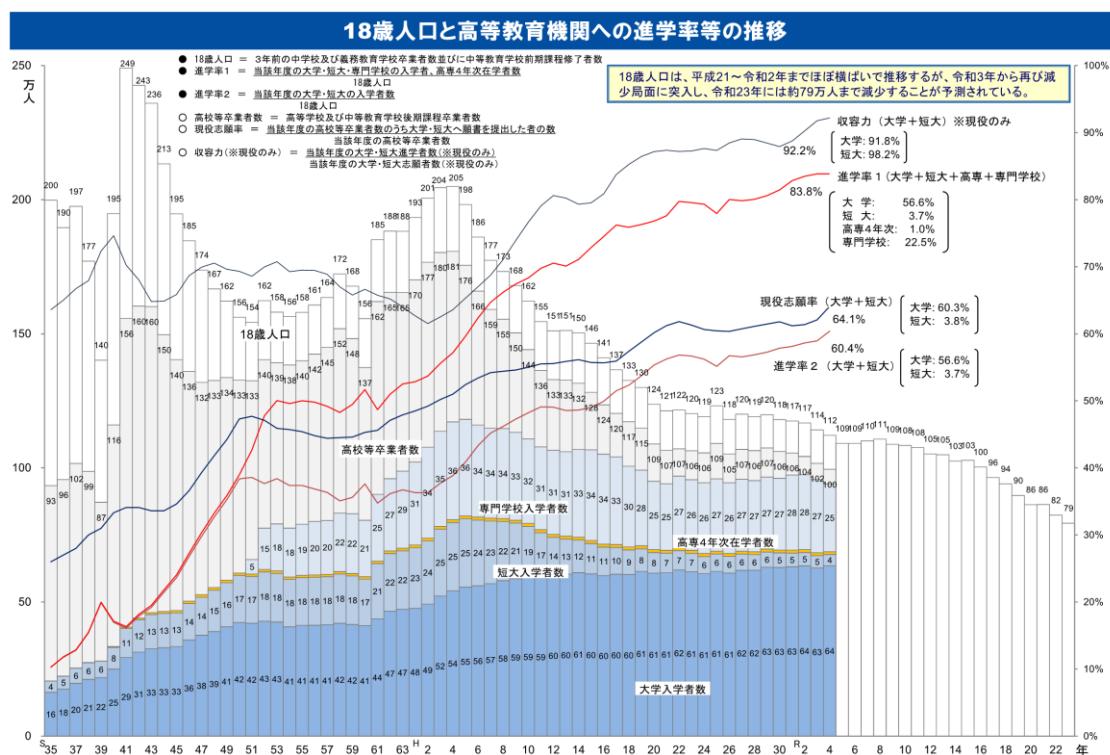


図1：18歳人口と大学進学率の推移（出典：中央教育審議会総会（第137回））

都道府県別大学(学部)進学率の変化(過年度卒業者等を含む)

都道府県別の過年度卒業者等も含む大学(学部)進学率は、地域によって差があるが、2007年と比較すると全体的に上昇している。

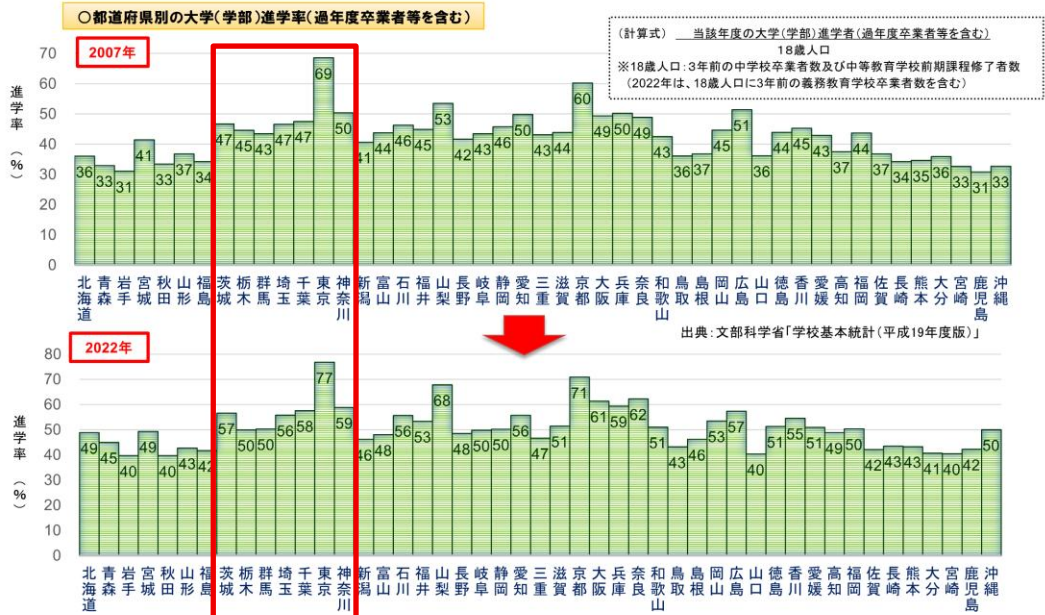


図2: 都道府県別 大学進学率の変化(出典: 中央教育審議会総会(第137回))

博士課程入学者の推移

- 博士課程入学者のうち、社会人以外の入学者数は平成15年度をピークに大幅に減少した。
- 社会人の割合は、平成15年度の2割から令和6年度には4割に増加した。
- 令和6年度の入学者数は15,744人となり、2年連続で増加した。

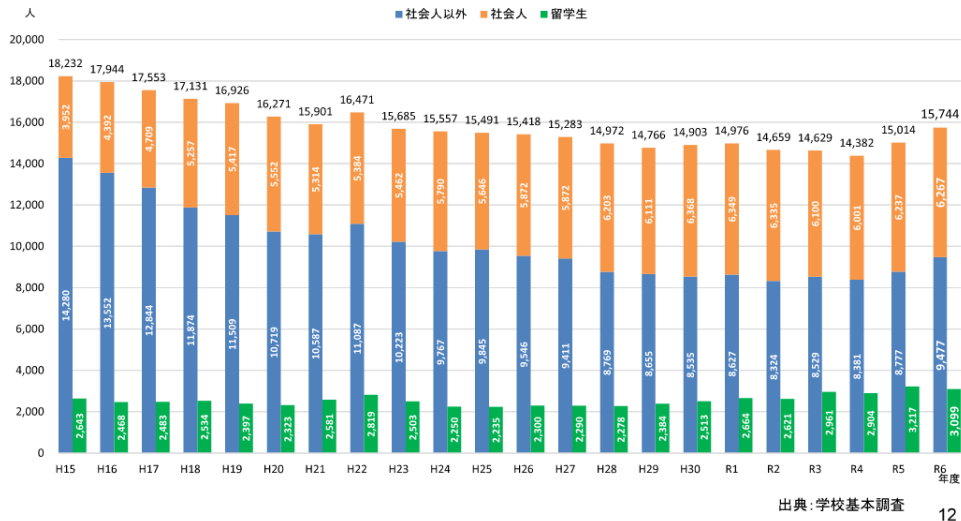


図3: 博士課程入学者の推移(出典: 中央教育審議会大学分科会大学院部会(第120回))

③ 新設組織の主な学生募集地域

東京農工大学及び早稲田大学の既設大学院における入学者の出身地は以下の表 2・3 のとおりである。共同専攻は両大学とも東京都内にキャンパスがあり、かつ過去 5 年間で東京都及び周辺地域の入学者が多いことから東京都及び隣接県を主な学生募集の地域として設定する。

表 2：生物システム応用科学府 共同先進健康科学専攻におけるR3～R7年度入学者出身地

出身地	人数
栃木県	1
埼玉県	3
千葉県	1
東京都	10
神奈川県	1
愛知県	3
京都府	1
熊本県	1
宮崎県	1
海外	5
総計	27

表 3：先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻におけるR3～R7年度入学者出身地

出身地	人数
宮城県	1
山形県	1
東京都	3
神奈川県	1
京都府	1
大阪府	1
岡山県	1
海外	1
総計	10

④ 既設組織の定員充足の状況

新設組織の引き継ぎ元となる東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻及び早稲田大学大学院先進理工学研究科共同先進健康科学専攻における過去5年間の志願状況及び定員充足率（表 4・5）の実績を示す。

東京農工大学においては、入学定員に対する入学者数は5年平均で充足率90%となっている。また、内部進学者の割合が50～80%と高く、これは東京農工大学大学院の博士前期課程修了者が博士後期課程への強い進学意欲を有していることの証左であると考えられる。

早稲田大学においては、入学定員に対する入学者数は5年平均で充足率60%となっているが、社会人入学者の割合が5年平均で60%と高く、社会人の多様なキャリア形成を支援する仕組みが認知され、社会人が博士後期課程への強い進学意欲を有していることの証左であると考えられることから、引き続き社会人を中心とした学生確保に向けた取り組みを進めていく。

表4 東京農工大学における過去5年間の志願状況、定員充足率等

学府	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	計 (平均)
生物システム 応用科学府 共同先進健康 科学専攻	入学定員	6	6	6	6	6	30
	志願者数	6	5	5	6	6	28
	志願倍率	1.0倍	0.8倍	0.8倍	1.0倍	1.0倍	0.9倍
	入学者数	6	5	5	5	6	27
	(内部進学者)	3	4	4	4	4	19
		50%	80%	80%	80%	67%	70%
	(留学生) ※内部進学者除く	1	0	0	1	0	2
		17%	0%	0%	20%	0%	7%
	(社会人) ※内部進学者除く	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%
	定員充足率	100%	83%	83%	83%	100%	90%

() 内は内数

表5 早稲田大学における過去5年間の志願状況、定員充足率等

研究科	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	計 (平均)
先進理工学研究科 共同先進健康 科学専攻	入学定員	4	4	4	4	4	20
	志願者数	2	3	2	2	3	12
	志願倍率	0.5倍	0.8倍	0.5倍	0.5倍	0.8倍	0.6倍
	入学者数	2	3	2	2	1	10
	(内部進学者)	1	0	0	1	0	2
		50%	0%	0%	50%	0%	20%
	(留学生) ※内部進学者除く	0	0	0	0	1	1
		0%	0%	0%	0%	100%	10%
	(社会人) ※内部進学者除く	1	3	1	1	0	6
		50%	100%	50%	50%	0%	60%
	定員充足率	50%	75%	50%	50%	25%	50%

() 内は内数

(3) 学生確保の見通し等

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア. 既設組織における取組とその目標

共同専攻のホームページでは、教育の特色、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、入試情報などの情報を発信しており、教員の研究、教育研究に関すること、想定する進路等について紹介して、志願者の確保に努めている。

イ. 新設組織における取組とその目標

既設の共同専攻のホームページを引き続き使用する予定である。ここにおいて、博士課程の教育の特色、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、入試情報などの情報を今後も発信する予定となっている。ここでは、教員の研究、教育研究に関すること、想定する進路等について紹介し、共同専攻の魅力を広く発信し、志願者の確保に努める。

共同専攻の志願者を対象とした大学院進学説明会を開催（社会人や遠隔地居住者等を考慮し、ハイブリッドで開催）する。

また、外国人留学生の受入を促進するため、外国人留学生特別プログラム入試を実施し、各国の優秀な留学生を受け入れる計画としている。さらに、学生の海外派遣や留学生の受入を通じて国際交流を推進し、博士課程への入学につなげていく。

さらに、社会人の多様なキャリア形成を支援するため、社会人特別入試を実施し、広く受け入れる。

ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

前述のとおり、共同専攻では、既設専攻に引き続き東京農工大学の入学定員は6名、早稲田大学の入学定員は4名と設定する。入学定員の設定に当たり、東京農工大学において大学院生・学部4年生を対象とした大学院博士後期課程（博士課程）への進学希望調査を実施（令和7年9月24日現在で回答があった学生は129名。そのうち修士（博士前期課程）1年の学生は113名。）した。

その結果、「博士後期課程に進学したい」学生は全体の約23%（30名）であり、そのうち「共同先進健康科学専攻に進学したい、進学先の候補として検討したい」学生は全体の約20%（26名）であった。共同専攻開設年度に入学が想定される修士（博士前期課程）1年の学生に限っても全体の約21%（24名）が「博士後期課程に進学したい」と回答し、「共同先進健康科学専攻に進学したい、進学先の候補として検討したい」学生は全体の約18%（20名）であり、入学定員（6名）を十分に満たす学生数を確保できる見込みである。

また、共同専攻が養成する人材のニーズについて確認するため、企業を対象に調査を実施した（令和7年9月24日現在で、回答があったのは電気、化学、食品、建設、コンサルティング等様々な業種の86社）。「バイオテクノロジー・創薬・医科学等に関する高度専門的スキル、リーダーとしての能力」の必要性を尋ねた設問に、「必要である」と回答した企業は全体の約38%（32社）、また「健康科学・分子生物学・遺伝子工学等を統合的に解析し理論構築を行う能力」が必要であるかを尋ねた設問に、「必要である」と回答した企業は34%（29社）である。このことから、専攻の教育内容、養成する人材像等についての産業界からの期待を十分に確認することができた。

実際に、共同専攻への社会人の入学者は、早稲田大学において顕著に高く（5年平均での社会人学生割合が60%）、すでに産業界が求める人材を育成する場として一定の評価を得ているものであると考えられる。

以上のとおり、これまでの実績や、社会・地域が求める人材需要の見通しを反映する求人企業へのアンケート調査のデータを総合的に検討した結果、既設専攻に引き続き質を担保しつつ定員を充足することが可能であると判断した。

② 競合校の状況分析

ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性

共同専攻は、健康・食糧・環境分野において体系的かつ組織的な先端健康科学の教育プログラムを東京農工大学と早稲田大学の共同で構築する共同大学院であり、国際的に通用する先端健康科学に関する高度教育を行い、高い専門性と学際的な視野をもつ人材を輩出することを目的としている。

近隣の都道府県には同様の教育を行う大学院はないことから競合校はないと考えられる。

イ. 競合校の入学志願動向等

上記のとおり、競合校を想定していない。

ウ. 新設組織において定員を充足できる根拠等

競合校を想定していないため、(3)①ウに記載の分析のとおり。

エ. 学生納付金等の金額設定の理由

東京農工大学の学生納付金は、「国立大学等の授業料その他費用に関する省令（平成16年文部科学省令16号）」に基づき、授業料は標準額の1.2倍、入学料及び検定料は標準額を基準として、以下のとおり設定している。

- ・授業料：642,960円（年額）
- ・入学料：282,000円、検定料：30,000円

早稲田大学先進理工学研究科共同先進健康科学専攻の学生納付金については、本学先進理工学研究科博士後期課程の他専攻と同額となるよう、入学金200,000円、授業料（年額）707,000円に設定している。これは、国内の他私立大学と比較しても大きな差はなく、妥当な金額であると判断している。

③ 先行事例分析

当該項目に該当しない。

④ 学生確保に関するアンケート調査

東京農工大学においては、学府の新設となることから、共同専攻に関するアンケート調査を令和7年7月～9月に実施した。対象者は先進学際科学府修士課程に所属する大学院生に加えて、生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻の指導教員が兼務する、農・工学府、農・工学部の研究室に所属する学生とした。なお、早稲田大学においては、研究科の新設ではなく、あくまで既設専攻を引き継ぐものであることから、アンケートは実施しなかった。

対象者には以下のとおり設置する組織の説明文を記載した。

東京農工大学では、現代の新たな社会課題に対して、計測科学、計算科学、データ科学を三位一体として連携・融合し、AI・数理・データサイエンス手法を活用して、新しい知の創造へと導くことのできるグローバル高度職業人材を育成するため、大学院生物システム応用科学府（BASE）を発展的に再編し、「大学院先進学際科学府」（以下「新学府」）先進学際科学専攻を設置する計画を進めています。

令和7（2025）年4月に修士（博士前期）課程が開始されており、令和9（2027）年4月に博士（博士後期）課程を開設予定です。

【博士（博士後期）課程】

博士課程は2専攻（「先進学際科学専攻」、「共同先進健康科学専攻」）から構成される予定です。

先進学際科学専攻では「予測情報学」（情報系の農工融合による学際的な新たなコース）、「融合科学」の2つのコースを設置する予定であり、深い学識と研究能力および国際通用性を兼ね備える人材育成を目指します。

共同先進健康科学専攻は、健康・食糧・環境分野において体系的かつ組織的な先端健康科学の教育プログラムを早稲田大学と共同で構築する共同大学院であり、国際的に通用する先端健康科学に関する高度教育を行います。

博士課程の設置計画にかかる基礎データとして、学生の皆様を対象としたアンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いいたします。

表6 アンケート対象者

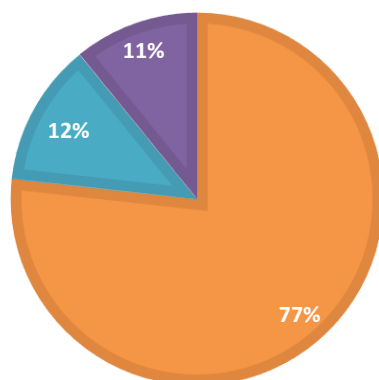
所属	専攻・学科	学年	回答者数
先進学際科学府	先進学際科学専攻	1	104
工学府	生命工学専攻	1, 2	9 (うち1年の学生は6名)
農学府	農学専攻	1, 2	7 (うち1年の学生は3名)
工学部	生命工学科	4	4
農学部	生物生産学科 応用生物科学科	4	5

共同専攻は、後期3年の課程のみの博士課程であり、東京農工大学における入学定員は6名と設定する。入学定員の設定に当たり、大学院生・学部4年生を対象とした大学院博士後期課程（博士課程）への進学希望調査を実施した（表6のとおり、令和7年9月24日現在で回答があった学生は129名。そのうち修士（博士前期課程）1年の学生は113名）。

その結果、図4のとおり「博士後期課程に進学したい」学生は全体の約23%（30名）であり、共同専攻開設年度（R9年度）に入学が想定される修士（博士前期課程）1年の学生に限っても全体の約21%（24名）であった。

大学院博士（博士後期）課程への進学についてお聞きします。
 9. あなたは（東京農工大学に限らず）大学院博士（博士後期）課程に進学したいと思いますか？

■ 進学したいとは思わない ■ 進学したいと思う ■ 進学する方向で検討中



進学したい：12%
 進学を検討中：11%
 合計：23%（129名中30名）

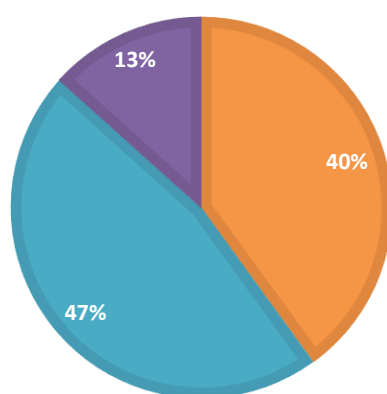
<修士（博士前期課程）1年に限定した場合>
 進学したい：10%
 進学を検討中：11%
 合計：21%（113名中24名）

図4 博士後期課程への進学希望

また、図5のとおり、30名の進学希望者のうち、「共同先進健康科学専攻に関心がある」、「ある程度関心がある」学生は約87%（26名）であった。修士（博士前期課程）1年の学生に限ると約83%（20名）であった。

10. 先進学際科学府（博士後期課程）の構想について伺います。
 考えを聞かせてください。〔共同先進健康科学専攻について〕

■ ある程度関心がある ■ 関心がある ■ 関心がない



関心がある：47%
 ある程度ある：40%
 合計：87%（30名中26名）

<修士（博士前期課程）1年に限定した場合>
 関心がある：37%
 ある程度ある：46%
 合計：83%（24名中20名）

図5 共同先進健康科学専攻への関心について

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

東京農工大学においては、学府の新設となることから、共同専攻が養成する人材のニーズについて確認するため、企業を対象にアンケート調査を令和7年7月～9月に実施した（令和7年9月24日現在で、回答があったのは電気、化学、食品、建設、コンサルティング等様々な業種の86社）。なお、早稲田大学においては、研究科の新設ではなく、あくまで既設専攻を引き継ぐものであることから、アンケートは実施しなかった。

現在、東京農工大学では現代の新たな社会課題に対して、計測科学、計算科学、データ科学を三位一体として連携・融合し、AI・数理・データサイエンス手法を活用して、新しい知の創造へと導くことのできるグローバル高度職業人材を育成するため、大学院生物システム応用科学府を発展的に再編し、「大学院先進学際科学府」（以下「新学府」）先進学際科学専攻を設置する計画を進めています。

令和7（2025）年4月に修士（博士前期）課程が開始されており、令和9（2027）年4月に博士（博士後期）課程を開設予定です。

その結果、図6のとおり、「共同先進健康科学専攻を修了した学生を希望する」、及び「どちらも（先進学際科学専攻及び共同先進健康科学専攻）希望する」を合わせた回答数は全体の約61%（52社）にあたる。

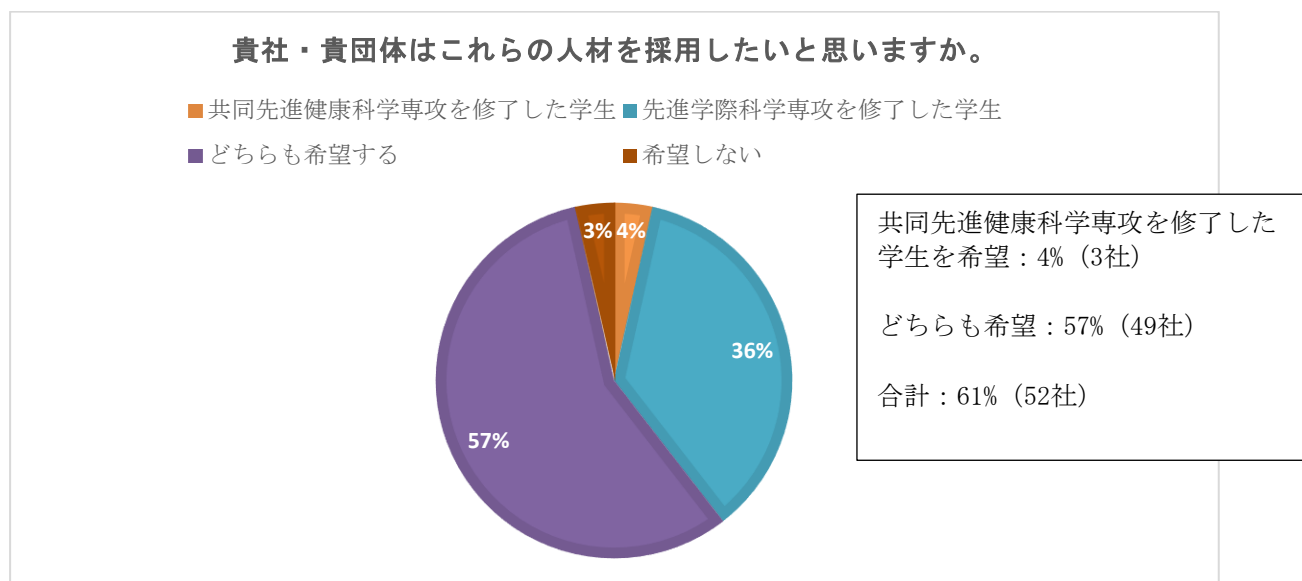


図6 共同先進健康科学専攻・先進学際科学専攻修了生の採用について

また、図7のとおり、「バイオテクノロジー・創薬・医科学等に関する高度専門的スキル、リーダーとしての能力」の必要性を尋ねた設問に、「期待する」と回答した企業は全体の約38%（32社）、また「健康科学・分子生物学・遺伝子工学等を統合的に解析し理論構築を行う能力」が必要であるかを尋ねた設問に、「必要である」と回答した企業は約34%（29社）である。そのほか、国際的なコミュニケーション力や実践的なプレゼンテーション能力に関する質問ではいずれも6割以上の企業が「期待する」と回答しており、これは共同専攻の養成する人材像と一致している。このことから、専攻の教育内容、養成する人材像等についての産業界からの期待を十分に確認することができた。

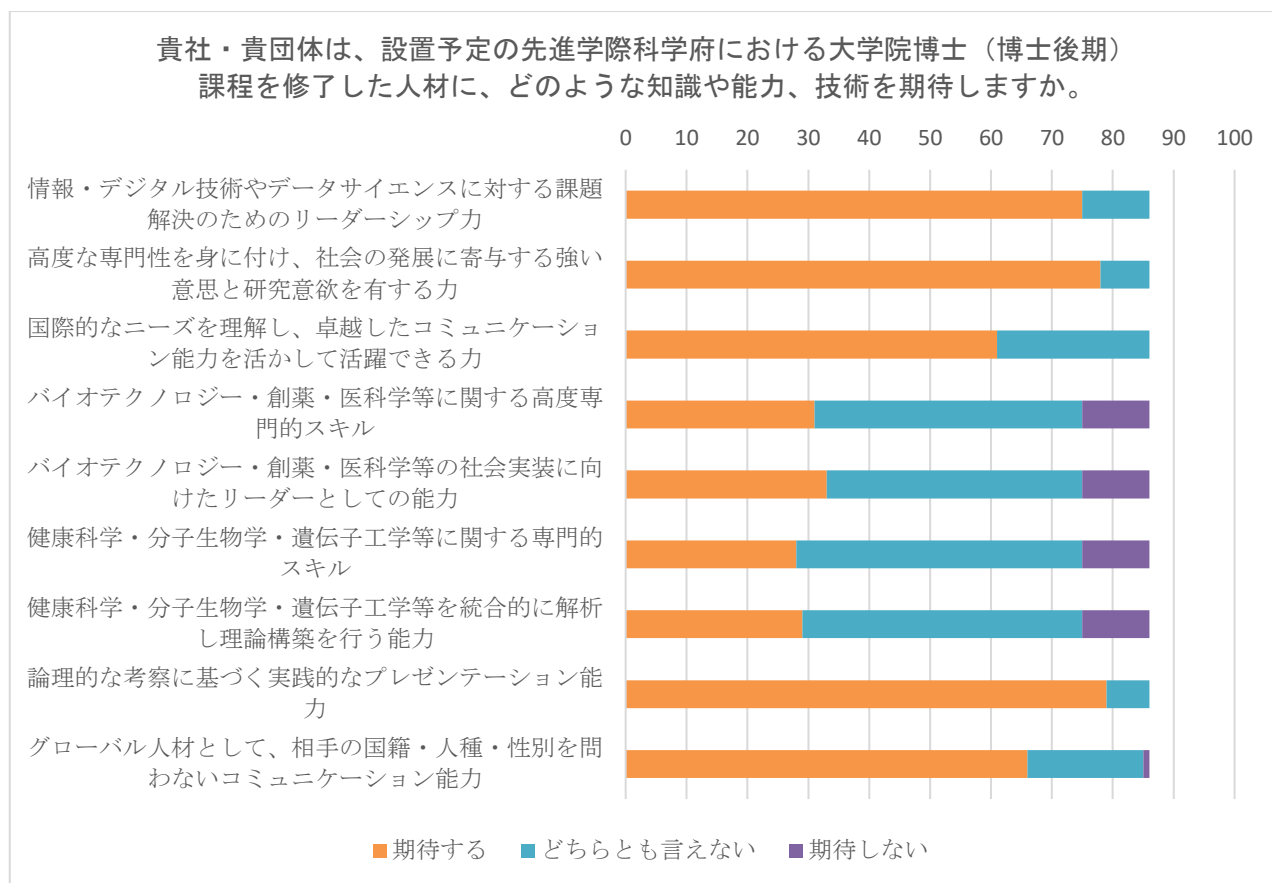


図7 博士後期課程を修了した人材への期待について

（４）新設組織の定員設定の理由

現在の東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻及び早稲田大学大学院先進理工学研究科共同先進健康科学専攻において入学定員は東京農工大学で6名、早稲田大学で4名に設定されており、（２）④の回答のとおり継続的に学生を確保していることから、共同専攻においても同じく東京農工大学6名、早稲田大学4名とする。

共同先進健康科学専攻：学生の確保の見通し等を記載した書類「資料」

資料 1 新学府設置の計画にかかるアンケート調査票様式（在学生向け）・・・・・・ 2

資料 2 新学府設置の計画にかかるアンケート調査票様式（企業等向け）・・・・・・ 11

12 セクション中 1 個目のセクション

共同先進健康科学専攻_新学府設置の計画にか かるアンケート調査のお願い（在学生向 け）

選択の内容により先のページに移行します。調査の質問は5問程度です。

このフォームでは、すべての回答者からのメールが自動的に収集されます。 [設定を変更](#)

あなたの所属学部等を教えてください。 *

1. 学部・学府名

1つだけマークしてください。

- ☐ 農学部
- ☐ 工学部
- ☐ 農学府
- ☐ 工学府
- ☐ 先進学際科学府
- ☐ 生物システム応用科学府

農学府学生にお聞きます。



説明（省略可）

2. コース名^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 生物生産科学コース
- ☐ 応用生命科学コース
- ☐ 自然環境資源コース
- ☐ 食農情報工学コース
- ☐ 地球社会学コース
- ☐ 国際イノベーション農学コース

3. 学年^{*}

- ☐ 1年
- ☐ 2年

工学府学生にお聞きします。



説明（省略可）

4. 専攻名^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 生命工学専攻
- ☐ 生体医用システム工学専攻
- ☐ 応用化学専攻
- ☐ 化学物理工学専攻
- ☐ 機械システム工学専攻
- ☐ 知能情報システム工学専攻
- ☐ 産業技術専攻

5. 学年^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 1年
- ☐ 2年

12 セクション中 4 個目のセクション

先進学際科学府学生にお聞きます。



説明（省略可）

6. コース名^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 予測情報学コース
- ☐ 資源・エネルギー科学コース
- ☐ 健康・福祉科学コース
- ☐ 食料・環境科学コース

12 セクション中 5 個目のセクション

生物システム応用科学府学生にお聞きます。



説明（省略可）

7. 専攻名^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 生物機能システム科学専攻
- ☐ 食料エネルギーシステム科学専攻

農学部学生にお聞きします。



説明（省略可）

8. 学科名 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 生物生産学科
- ☐ 応用生物科学科
- ☐ 環境資源科学科
- ☐ 地域生態システム学科
- ☐ 共同獣医学科

工学部学生にお聞きします。



説明（省略可）

9. 学科名 *

1つだけマークしてください。

- ☐ 生命工学科
- ☐ 生体医用システム工学科
- ☐ 応用化学科
- ☐ 化学物理工学科
- ☐ 機械システム工学科
- ☐ 知能情報システム工学科

セクション タイトル（省略可）



8. あなたは現代社会において計測／計算／データ科学を三位一体として活用し、新しい知識やイノベーションを生み出しながら社会的な課題を解決するための能力を身に付ける必要があると思いますか？

1 つだけマークしてください。 *

- ☐ 大いにあると思う
- ☐ 多少はあると思う
- ☐ あまりないと思う
- ☐ 全くないと思う
- ☐ 分からない

大学院博士（博士後期）課程への進学についてお聞きます。 *

9. あなたは（東京農工大学に限らず）大学院博士（博士後期）課程に進学したいと思いますか？

1 つだけマークしてください。

- ☐ 進学したいと思う
- ☐ 進学する方向で検討中
- ☐ 進学したいとは思わない

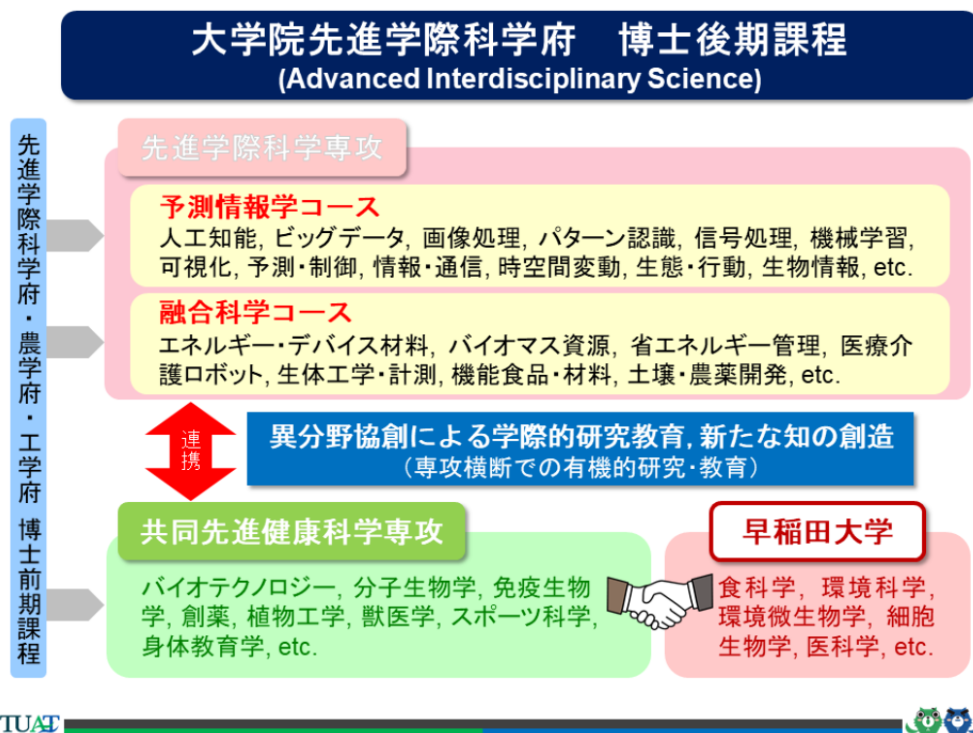
先進学際科学府（博士後期課程）についてお聞きます。



< 教育研究について >

農学・工学の理論及び応用を深く学び、高度なデジタル関連知識と技術を身に付ける「先進学際科学専攻」と、農学・工学・理学を基軸とした領域融合型教育研究を学び、医・食・環境に関わる先端研究を推進する能力や、機器・新薬・分析法等の開発に関わるプロセスを統括する能力を身に付ける「共同先進健康科学専攻」の2つの専攻を設置する予定です。

< 新学府先進学際科学専攻（博士課程）イメージ図 >



10. 先進学際科学府（博士後期課程）の構想について伺います。^{*}

考えを聞かせてください。

項目ごとに選択してください。

	関心がある	ある程度関心がある	関心がない
先進学際科学専攻につ…	☐	☐	☐
共同先進健康科学専攻…	☐	☐	☐

11. 先進学際科学府（博士後期課程）に進学したいと思いますか？^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 進学したいと思う
- ☐ 進学先の候補として検討したい
- ☐ 進学したいとは思わない

12 セクション中 10 個目のセクション

前の質問で「進学したい」、「進学先の候補として検討したい」のいずれかを回答された方にお聞きします。



説明（省略可）

12. 先進学際科学府の、どちらの専攻に進学したい、あるいは興味がありますか？^{*}

1つだけマークしてください。

- ☐ 先進学際科学専攻
- ☐ 共同先進健康科学専攻

前の質問で「進学したいとは思わない」と回答された方にお聞きます。



説明（省略可）

13. そのように考える理由は何ですか？^{*}

1つだけマークしてください。

☐ 本学の他学府への進学を希望しているから

☐ 他大学への進学を希望しているから

☐ 就職を第一希望としているから

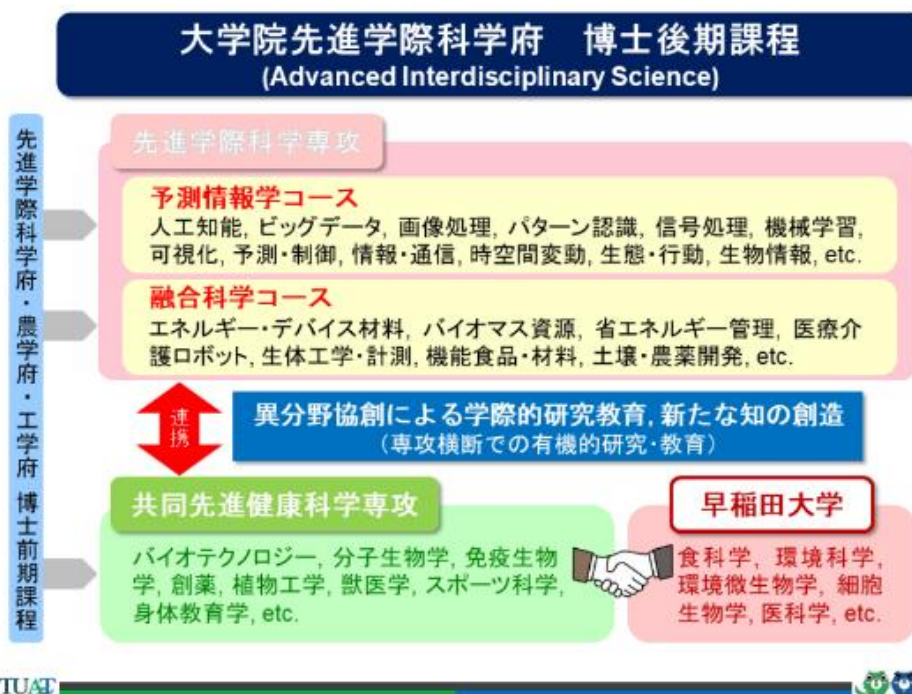
☐ その他: _____

新学府設置の計画にかかるアンケート調査票様式（企業等向け）
 ＜先進学際科学専攻・共同先進健康科学専攻で共通の設問＞

〔新学府設置の計画にかかるアンケート調査のお願い（企業等の皆様向け）〕

* 必須の質問です

大学院先進学際科学府 博士後期課程イメージ



＜設問 1＞

貴社・貴団体は、異なる学問領域や学術分野を横断して協働し、計測／計算／データ科学を三位一体として、新しい知識やイノベーションを生み出しながら社会の諸問題を解決する高度職業人材が必要だと思われますか。

●いずれかを選択してください。

- ☐ 必要だと思う
- ☐ 必要とは思わない
- ☐ 分からない

〈設問2〉



先進学際科学府博士後期課程では、農学・工学の理論及び応用を深く学び、高度なデジタル関連知識と技術を身に付ける「先進学際科学専攻」と、農学・工学・理学を基軸とした領域融合型教育研究を学び、医・食・環境に関わる先端研究を推進する能力や、機器・新薬・分析法等の開発に関わるプロセスを統括する能力を身に付ける「共同先進健康科学専攻」の2つの専攻を設置する予定です。

貴社・貴団体はこれらの人材を採用したいと思いますか。

●いずれかを選択してください。

- ☐ 「先進学際科学専攻」を修了した高度情報専門人材を採用したい
- ☐ 「共同先進健康科学専攻」を修了した高度専門人材を採用したい
- ☐ どちらの人材も採用を希望する
- ☐ どちらの人材も採用を希望しない

〈設問3〉

★

貴社・貴団体は、設置予定の先進学際科学府における大学院博士（博士後期）課程を修了した人材に、どのような知識や能力、技術を期待しますか。

●項目ごとに選択してください。

	期待する	どちらとも言えない	期待しない
情報・デジタル技術 やデータサイエンス に対する課題解決の ためのリーダーシッ プ力	☐	☐	☐
高度な専門性を身に 付け、社会の発展に 寄与する強い意思と 研究意欲を有する力	☐	☐	☐
国際的なニーズを理 解し、卓越したコミ ュニケーション能力 を活かして活躍でき る力	☐	☐	☐
バイオテクノロジー ・創薬・医科学等 に関する高度専門的 スキル	☐	☐	☐
バイオテクノロジー ・創薬・医科学等 の社会実装に向けた リーダーとしての能 力	☐	☐	☐
健康科学・分子生物 学・遺伝子工学等に 関する専門的スキル	☐	☐	☐
健康科学・分子生物 学・遺伝子工学等を 統合的に解析し理論 構築を行う能力	☐	☐	☐
論理的な考察に基づ く実践的なプレゼン テーション能力	☐	☐	☐
グローバル人材とし て、相手の国籍・人 種・性別を問わない コミュニケーション 能力	☐	☐	☐

〈設問 4〉

★

貴社・貴団体の名称について、教えてください。

回答を入力

〈設問 5〉

★

貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、教えてください。

選択

〈設問 6〉

★

貴社・貴団体の業種について、もっともあてはまるものを1つ選択してください。

選択

〈設問 7〉

★

アンケートにお答えいただいている方について教えてください。

- ☐ 採用の決裁権があり、選考に関わっている
- ☐ 採用の決裁権は無いが、選考に関わっている
- ☐ 採用には関わっていない